

～最新技術の活用による鳥獣被害対策等実証事業～

〔令和4年度実施地区〕 白鷹町 東根(小山沢)地区

■実施体制

- 実施主体：地域住民、耕作者
- アドバイザー：小野 晋氏、永田 陽介氏
(株式会社地域環境計画)

■地区のプロフィール

- 地区内の戸数：113戸 うち農家数約55戸
- 主な被害作物：水稻 等
(R3：被害面積 約1.4ha)
- 主な加害鳥獣：イノシシ



1. 取組のきっかけ

- 小山沢地区では令和元年頃からイノシシによる田畑の掘り起し等の被害が増加し、農業者の収入減少や意欲低下が危惧される状況であった。地区では、農業者個人が電気柵等の侵入防止柵の設置する、鳥獣被害対策実施隊による捕獲活動を実施する等に取り組んでいた。
- 地区内での鳥獣被害対策を進めていく上で加害鳥獣であるイノシシの生息域、個体数、侵入経路等を確認する必要があった。確認する手段としてドローンを活用した集落環境点検を実施し、情報を地区内で共有することで集落全体の鳥獣被害対策への意識醸成を図ることとなった。

2. 取組の内容

●今年度取組についての打合せ

地域の代表者、アドバイザー、県、町が集まり、小山沢地区の被害の現状や、これまで実施している捕獲方法、被害対策の確認、今後のスケジュールについて打合せを行った。

●ドローン調査の実施（10月・12月）

地区周辺においてドローンを活用した集落環境点検（10月昼間）及び生息状況調査（12月夜間）を実施した。生息状況調査では、イノシシは撮影されなかったものの、集落環境点検の結果では、地区内で獣道や痕跡が多く確認された。また、撮影された写真は地図化をし、被害対策研修会で、情報整理や意見交換の際に活用した。

●被害対策研修会（全3回）

アドバイザーの講義により、イノシシの生態と農作物被害の対策方法について説明を受け、集落内の環境整備や電気柵等の侵入防止柵の適切な設置の重要性を確認した。また、地区内の被害状況やイノシシの目撃情報を整理し、今後地区で進める被害対策について意見交換を行った。

●ICTわなによる捕獲実証試験

ICTわな（捕獲通報システム）を活用した捕獲実証試験を行った結果、使用した狩猟者からは、捕獲が事前に通知されることで、止めさしの準備や錯誤捕獲の可能性に対する心構えができたなど効率化や安全性を実感できたとの意見があった。



被害対策研修会の様子



ドローン調査の様子



調査結果のGIS地図化

3. 課題と今後の展望

- 集落環境点検により、イノシシが侵入しやすい藪地は農地周辺の他、住宅地付近にも散在し、農業被害だけでなく生活被害にも及ぶ可能性があることが示唆された。集落全体を鳥獣が寄り付きにくい環境にするため、農業者だけでなく、非農業者も含めて意見交換を行い、電気柵設置の拡充や藪の刈払いなどの対策が話し合われ、集落が一丸となって被害対策を進めていくことになった。